

雅瑪圖臺を距る北方約一里に一小嶺を越え更に二里を進みて一小嶺を過ぐ。前者は昇降共に傾斜稍急にして短距離なるも後者は砂利の好路能く走るべし。昨の降雪尙ほ足らざるにや、北風強く吹きて雪を交へ、一時は四面糢糊咫尺を辨せざりしが、須臾にして歇むと共に、忽ち融解して積むに至らず。午前十一時三十分行程約十里托里驛トリイ即ち托羅布拉克臺トロボラクに着す。之を十一日の行程とす。途中一の灌木に接せず。會々貧困なる蒙古人の一家族の移轉するに遇ふ。數頭の駱駝、數頭の牛馬、氈幕を馱し家什を載せ尙且數匹の犬相加はりて、男女老幼皆馬に跨り、陸續たる人畜一連の行列は、百鬼夜行の状とも見んか、實に近頃の一奇觀たりき。

三、昨の奇觀、今の美觀

翌十二日快晴、二十里堡アルタオチャオ別名ヤマンタンラオフンカオ老風口サールホラス（即ち沙爾霍羅斯臺）を経て行程約二十里、二道橋アルタオチャオ一名固爾圖臺クルトタイに達す。托里老風口間は廣原をなして、蒙古及哈薩克人各處に駱駝、馬、羊等を牧養し、多きは一家數千頭の羊を飼ふ。聞く一人にて監視し得べき羊の頭數は、五百頭を限度とすと。無限の草地に幾百の人各々快馬に鞭ち、幾千萬頭の羊を放牧するの状、遠く之を望めば、宛然大練兵場に調練をすもの、